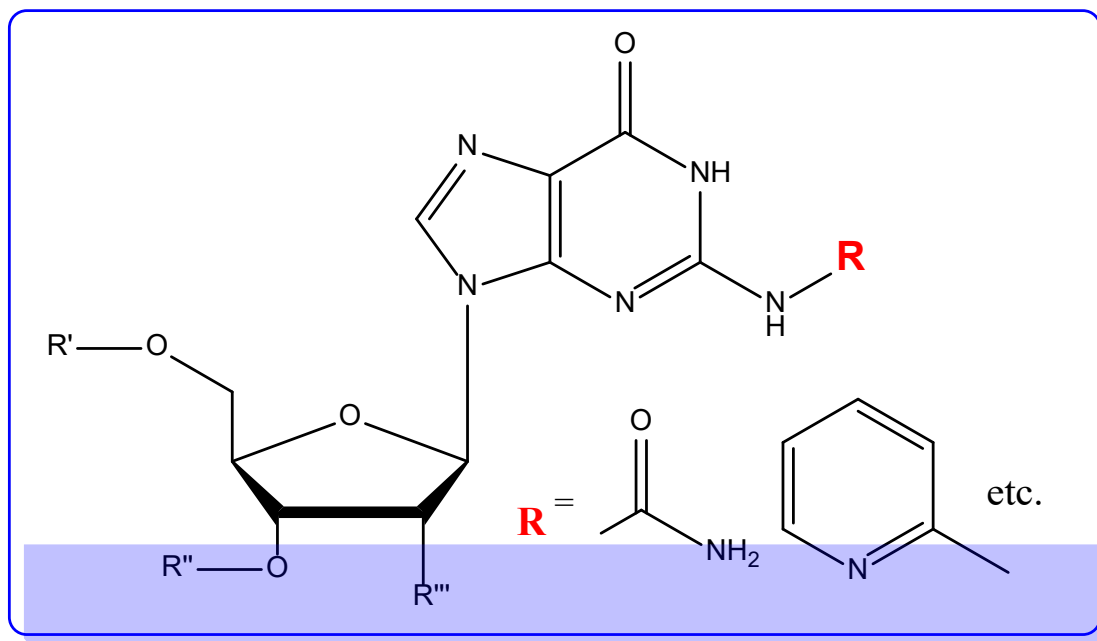


塩基部修飾ヌクレオシドを含む 新規アンチセンス核酸

新技術の概要

グアニンにカルバモイル基や2-ピリジル基を導入した 新規アンチセンス核酸によるオフターゲットの抑制

- アンチセンス核酸の配列に、グアニンにカルバモイル基や2-ピリジル基を加えた塩基部修飾ヌクレオシドを導入することにより、標的核酸（特にRNA）に対する選択性が向上
- これにより、主作用である核酸切断能を維持しつつ、副作用である非標的核酸の切断（オフターゲット効果）を阻害又は軽減



Alteration of target cleavage patterns and off-target reduction of antisense oligonucleotides incorporating 2-*N*-carbamoyl- or (2-pyridyl)guanine.
Kanagawa, T.; Koyama, A; Masaki Y.; Seio, K. *Org. Biomol. Chem.* **2023**, 21, 5214.

本技術のアピールポイント

- 活性を維持しながら、オフターゲット効果を抑制することができる

用途分野

- アンチセンス核酸医薬

特許情報

発明の名称 塩基部修飾ヌクレオシドを含む新規アンチセンス核酸

発明者 清尾 康志、正木 慶昭 他

出願 特願2022-31307（出願日:2022/3/1）

公開 特開2023-127484（公開日:2023/9/13）

本学整理番号 21T172